

KSKS

No.112

21.4.28

ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5
TEL/FAX 0742-41-6039
URL <http://narayuinokai.or.jp>

定価 1部50円
年間 300円

◆法人からの報告

「会食制限の時代
コミュニケーション深めるには」
理事 田岡 めぐみ … 1

◆News

◇ひまわり新聞
◇奈良市若者サポートセンター
Restartなら（リスタートなら） … 2

◆Reports

さわやぎ／きらく … 3
ぼすと／D-PORT … 4
こもればB型／こもれば生訓 … 5
地活歩っと／相歩歩っと … 6
職員配置 … 7
広報部 … 8

◆Thanks

後援会費納入者 … 8

会食制限の時代

コミュニケーション深めるには

春が訪れ、若草山は少しずつ萌えています。皆様はお元気にお過ごしでしょうか。想定外の自然の驚異、未知の新型コロナウイルスにおびえながらのストレス生活が続いています。いつまで続くのだろうかと不安を抱え、マスク着用・手指の消毒・3密回避と新生活習慣が当たり前になりつつあります。「会食」も制限されて久しくなります。

先日、新聞で「会食」をする文化を持つ淡路島のサル社会の記事を読みました。一般的なサル社会は順位があり、上位のオスザルが他を追い払って好きなだけ食べ、下位のサルはそのおこぼれを食べ、より弱くなります。しかし、淡路島のサルは争うことなく、ボスザルが衰弱しているサルや子ザルを抱きかかえ、まず最初に食事を食べさせるのです。その後、他のサル同士が順位を離れ、一緒に「会食」します。食事を分け合う習慣は次の世代へと受け継がれ、仲間同士が協力し、やさしいリーダーのもと、共感・共有ができる「文化」があるという記事でした。「平和」とはこういうことなのかと心動きます。



ゆいの会は、作業所時代から昼食作りを大事にしてきました。「今日は何を食べようか」「何を作ろうか」と話し合い、1日が始まります。役割を分担し、協力し合って食事を作り、そして一緒に食べます。「おいしいね」「塩からい」など言い合い、コミュニケーションが生まれます。おなかが満たされるとともに、不思議と孤立感も和らぎます。孤立しない工夫がそこにはあります。

コロナ禍の新生活習慣は、人と人との接触を避けるものですが、2021年度の経営方針にはあえて、「職員間のコミュニケーションの機会を増やし、風通しのよい民主的な運営を目指す」とあります。感染予防をした上で、職員同士の連携・つながりを深め、それがより良い支援・事業所運営となるよう努めていきたいと思っております。今年度も、皆様のご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(田岡めぐみ)

News

Restartなら 孤立から社会とのつながりへ伴走

奈良市ではひきこもり(※)の人が約3000人いると推計されており、様々な理由や背景により社会から孤立している若者の相談が毎年増えています。奈良市は平成30年に奈良市若者サポートセンター「Restartなら(リスタートなら=リスなら)」を開設し、悩みを抱えている子ども・若者の相談に応じてきました。これまで保護課、福祉政策課が同事業を実施してきましたが、令和2年度から奈良市社会福祉協議会が事業を受託しました。地域を巻き込みながら活動してきた社会福祉協議会だからこそできる、より柔軟な支援を期待されることです。制度の狭間にいる人の受け皿として、主に15歳以上39歳までの若者やその家族を対象に伴走しながら関係性をつくり、その人の思いや意思を受け止め、これからの生き方を一緒に探っています。

令和2年度からは来所相談だけでなく、訪問相談も試行しています。3人のリスなら職員のほか、登録相談員(障がい者支援に関わる専門職やひきこもり経験者、市民ボランティア等)が関わりながら、ゲームや料理、プールへの同行など本人の希望や思いに寄り添いながら、一緒に何かをするという関わりを増やしています。また、ひきこもり当事者やその家族の居場所作りも大切にしており、令和3年

年度は少人数で本人に合わせた選択肢があるなど多様な居場所の開発や運営などを行なっていく予定です。

リスなら職員の後藤文造さん(右写真)は「若者が孤立する前に誰かにつながっていくことで、将来の中高年のひきこもりをなくすことにもつながる。そこには、『温かく受け止める

人』が介在する仕組みが必要。制度の狭間にいる人を受け止める人をいっぱい増やすとともに、安心して関われる環境づくりが大切」と話します。

※仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人と交流をほとんどせず、6カ月以上続けて自宅にひきこもっている状態 (宮崎涼真)

◆奈良市若者サポートセンターRestartなら(リスなら) 電話:0742-34-4777



相談窓口は奈良市役所中央棟2階です

News

コロナに負けず、退院に希望を

ひまわり新聞 創刊!

2020年度は新型コロナによって、思うように活動できない1年となりました。「ひまわり」も同様です。2007年のグループ発足以来、吉田病院と五条山病院の入院者との交流を続けてきましたが、交流会ができなくなったのは初めてです。

こんな時だからこそ、病院に地域の風を送りたい。交流会に代わる活動を模索し、ポスターと新聞を作ってきました。まずは吉田病院から、対象病棟に掲示してもらうほか、入院者が自由に持ち帰れるようにもする予定です。記事は「ひまわり」メンバーそれぞれが入院している人に届けたいことを書きました。入退院の体験談、自分の部屋や通っている事業所の紹介…。中には、得意なことを活かして数独を作った人もいました。新聞の名称は『ひまわり新聞』。年2~3回の発行を目指します。

精神科病院におけるコロナ禍の影響は、交流会ができなくなっただけではありません。ひまわりに

参加している2カ所の相談支援事業所は、一般相談支援事業所の指定を受け、地域移行支援を行なってきましたが、2020年度は市内の新規相談はなく、地域移行が停滞していることが課題としてあがっています。

何となく皆の士気が下がりそうな今、地域移行への歩みを止めないよう、『ひまわり新聞』が、地域とのつながりを感じられる、退院後の生活への希望を持てるための一助となってくれることを期待します。(慶伊里衣子)



◀ A4・1枚分の記事7つで構成されています